



2025年12月25日  
日本ガイシ株式会社

## マツダ車のスーパー耐久レース車両に、CO<sub>2</sub>センサーが初搭載 ～過酷な環境下で、CO<sub>2</sub>回収装置の実証実験成功に貢献～

日本ガイシ株式会社(本社:名古屋市、代表取締役社長:小林茂)は、スーパー耐久レースに出場したマツダ株式会社(本社:広島県、代表取締役社長兼CEO:毛籠勝弘)の車両に搭載された、車載用CO<sub>2</sub>回収装置の一部として、当社製CO<sub>2</sub>センサーが採用されたことをお知らせします。このCO<sub>2</sub>センサーは、レースという過酷な環境下でも動作し、CO<sub>2</sub>回収量を測定できることが確認されました。当社は本取り組みを通じて、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

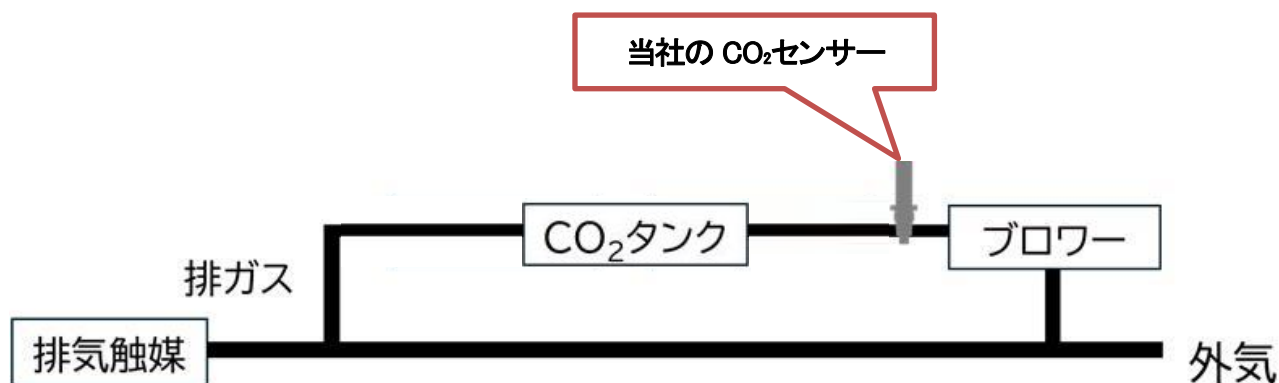
本実証実験では、当社のCO<sub>2</sub>センサーが、従来困難とされてきた厳しい環境下のレース車両に使用され、CO<sub>2</sub>回収装置の安定制御に貢献し、高精度なCO<sub>2</sub>回収量測定を実現しました。これにより、マツダが開発する新たなカーボンニュートラル技術の実証実験成功に貢献しました。

当社のCO<sub>2</sub>センサーは、車載用NO<sub>x</sub>センサーで培われたセラミック技術を応用しています。高温・高湿度の環境下でも排気ガス中のCO<sub>2</sub>濃度をリアルタイムで検出し、装置の稼働状況を的確に監視できることが特長です。そのため、走行距離に応じた大気中CO<sub>2</sub>削減効果を定量的に把握できるようになり、本実証実験の信頼性向上につながっています。

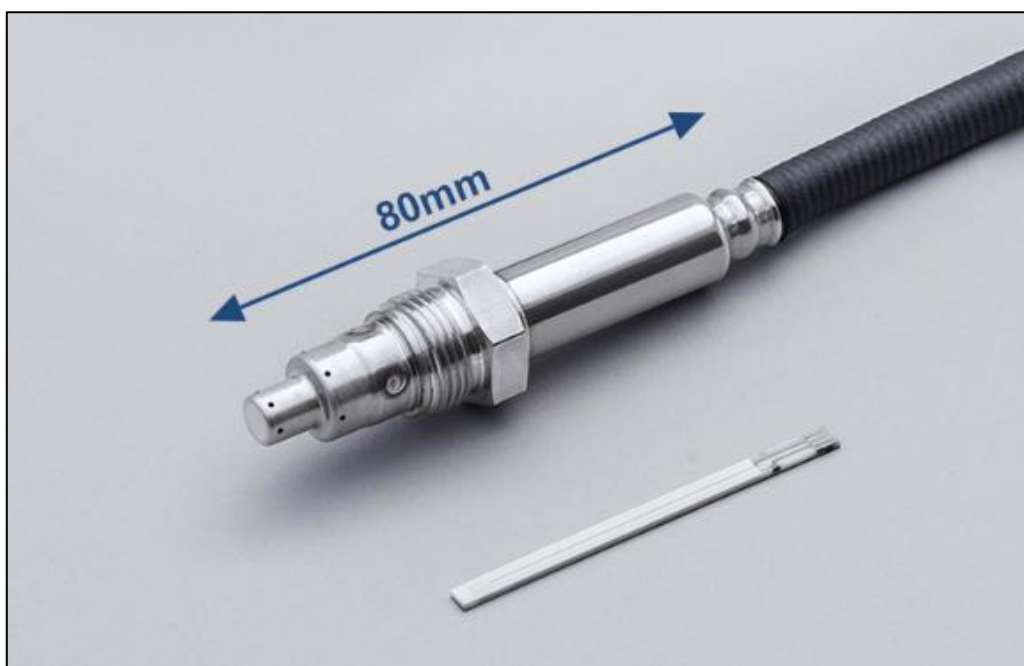
マツダは2035年に向け、「走るほどにCO<sub>2</sub>を減らす」モビリティの実現を目指しています。カーボンニュートラル燃料で走行し、排出されるCO<sub>2</sub>を回収できれば、走行距離に応じて大気中のCO<sub>2</sub>を削減できると考えています。11月15日から16日にかけて開催されたスーパー耐久レース第7戦の車両にCO<sub>2</sub>回収装置が搭載され、実証実験が行われました。

当社のCO<sub>2</sub>センサーはこの構想を支える重要な技術として、モビリティ領域でのカーボンニュートラルに貢献しています。

NGKグループは、2050年の未来を見据えた中長期ビジョン「NGKグループビジョン Road to 2050」で、カーボンニュートラル(CN)とデジタル社会(Digital Society:DS)分野への事業構成転換を目指しています。今後もマツダが参加予定のスーパー耐久シリーズを通じて、レース車両でのCO<sub>2</sub>回収率向上に向けた実証実験を継続し、モビリティ領域でのカーボンニュートラル社会を実現していきます。



CO<sub>2</sub>センサーの搭載箇所(イメージ)



CO<sub>2</sub>センサー(上)と内部のセラミック製素子(下)

参考情報: 高温・高湿環境でも使用可能な高速応答CO<sub>2</sub>センサー

<https://www.ngk.co.jp/rd/co2/>

＜お問い合わせ先＞ コーポレートコミュニケーション部 / 狩谷、塚本 TEL: 052-872-7980